

---

# 平和は和み

八百万 百合

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

平和は和み

### 【NZコード】

N3798Z

### 【作者名】

八百万 百合

### 【あらすじ】

平和が一番、それが好きな男子高校生の日常を書いたなごみ小説  
?

# Heiwa is Nagomi

「はあ… 今日も平和な一日だったな」

颯爽と自転車が家へ帰った

僕の名前は村奈真新そんなまにいっしん、平和を好み、面倒なことはしない性格である

「ただいまー」

「おかえりー、テストどうだった?」

「普通」

「普通以外で示せ」

にらめつけてきたので素直に囁つ

「まあまあよかつたんじゃない」

「ならいい」

…ふう、さすが母さん、元警察官だったのはいまだに健在だな

「もう…面倒だ」

この物語は日常の男子高校生を書いたストーリーである

なごみたい、それが私の望み。

1 和み 性格（前書き）

マジくん、田中くんです

## 1 和み。性格

「ねえ、お腹空かない？」

「え？俺は空かないけど……」

ぐう

「腹の虫なつたぞ、田中？」

ぐう～

「田中？」

ぐお～

「…寝とんかい！」

「ああ、おはよ真新知」

「こつはな田中、たなか田中栗鼠真りすま、俺の友達。

「出掛けよつ

「いきなりー？」

「当たり前だろ

「はあ…。」

つてなわけで自転車に乗つて果てしない旅へ行つた俺たちである

「……到着……」

「……はあ……はあ……」

田中の荒い息が…

「栗鼠真…お前、興奮するなつてー。」

「興奮…じつないよ…ただ…その、早いつて

「早いか?…こんな普通じゃない?」

まあ、普通といつても、たちこまいで、信頼、キリギリで、休憩なしでサイクリングしてた程度だけどな…

「さすが!…栗鼠真…太つ腹!」

「いやいや…太つ腹関係ないよ!…!」

まあそんなこんなありながら、コンビニについた俺たち。

「ねえねえ猛!…、次わアホテルがいいなあ

「じょうがないなあ…薰は

「あ…リア充だ、消えろと言つてえ!…!

「リア充爆発しろー！」

「あ、栗鼠真…言つちりやつた」

「何あいつ～、猛、やつせと行きましょ」

「…あ、あ…」

「…猛？」

「…僕と、結婚してください！たつた今、一田惚れしました！」

「男に興味ねえ、消えろ」

栗鼠真…言つちりやつな

「ああん、もつといつて～」

「馬鹿！アホー！」／＼ぐづーー」

「ああん…き、気持ち…はあはあ」

「ついてくんな…」

「ああん…あなたに一生ついてこきますー。」主人様！

「ぐづー！邪魔だー！」

「もつといつて、なぶつて」

「ちつ！金稼ぎの男ができたと思ったのに…」

「あ…色々と本性丸出しだ…

「真新知！助けて！help！」

「…頑張れ」

「酷い！？」

この物語の中心的登場人物はこの三人である

村奈真新知、田中栗鼠真、マゾくん

さあて…ここからが本番だ！

「助けてえ〜」

田中の助け声が聞こえるが今日はほつといひ。

**1 和み 性格（後書き）**

次も遅いです

## 2 和み。肺活量（前書き）

まあまあ、新たな物語のはじまりだね

## 2 和み。肺活量

「田中、肺活量少ないな」

「え、いきなり何？」

「だつて、持久走9分以上でしょ」

「え、あ…ん~」

「図星か…」

「9分以上じゃないけど…」

「あ、違ったの？」

「10分以上なんだけど…」

「もつと遅かつたか！」

俺は床を叩いた足で思い切り踏んづけた

「ど、どうしたの？」

「くっ、俺としたことが…」

「自分を責めないで！」

「いや、責めてないよ」

即答

「ええ~」

「ただ…栗鼠真の惨めな姿を見て…クク

笑いが…

「ねえ、笑つてるよね？」

「笑つてないよ」

またまた即答

「いやいやいや、嘘はいけないよ…」

「ああん！…てめえ、俺様が嘘をつくと思つたか！」

「すいません…」

「わかりやあいんだよ…クク」

『笑つてル――』

「ああん？何か言つたか！」

「あ、すいません…」

「ククククク…」

「く、笑え～！」

「何言つてんの？ちょっと馬鹿か？」

「酷い！いつも思つてるけど酷い！」

「まあまあ、い・つ・ものことじやなイカ！」

バシバシ

栗鼠真のかたを強く叩いた

「イタイイタイ」

「なに！？イタイイタイ病だと…？」

「違うからね、うん」

「は？」

「…え～～」

「まあ…飽きたから戻そつ

「あ、うん」

「何話そう？」

「何話そつか？」

沈黙が続く

「…消えてくれ無い？」

「嫌だよ！」

「え～～？」

「嫌に決まってるよ！」

「あ、空に…穴が」

「え？」

真上に真っ暗な穴がぽつかり空いていた

「「え～～！」」

「どうしようか、栗鼠真？」

「本当にどうしよう？」

「あ、穴の大きさが…」

「大きく…」

「どうしましょ～」

穴の大きさはついに、空の全体を包んだ。

## 2 和み。肺活量（後書き）

ある、といつしまじょ  
ひ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3798z/>

---

平和は和み

2011年12月25日14時52分発行